

2016 Jikji International Road Race レポート 第2ステージ

2016-0517 発信

大会 2 日目、第 2 ステージ。

今日はホテルの前の食堂で 6:30 に朝食を摂った。前日の夕食の際に、汁物とご飯のリクエストを出しておいたので、食事のテイストは問題なし。

第 2 ステージについては、選手のレポート中心にまとめる。

栗原 悠（千原台 3 年）

レース序盤からアタック合戦になる。初めのアタックに相葉君が反応した。その後次々とアタックがかかる。落車も多かった。2 回落車に巻き込まれたが問題なく集団に戻れた。序盤は自分と花田君が全てのアタックにチェックに入ったが、逃げは決まらず脚を浪費してしまった。2 周目以降のアタックにも全て反応したため、余計に脚を浪費してしまった。

3 周目に自分と花田君の脚が消耗著しかったので集団内後方で脚を回復させた。その時にアタックがかかりその逃げが決まった。その逃げ集団に満田君が入った。最後は集団の残った中でのスプリントになるだろうと予測し、強いスプリンターは登り坂で振り落しとこうと思いペースを上げた。しかし下りで追いつかれた。次の登りでまたペースを上げた。それにより集団が 2 つに分裂し、前方集団に自分と花田君が入った。そしてそのままゴールに向かい、前方集団でのスプリントになった。

自分が発射台になり花田君を引っ張るつもりだったが花田君の位置が思わしくなく、それができそうになかったため、個人のスプリントに切り替えた。最終局面で韓国選手の肘当てなど荒い走りが非常に多かった。その集団では 3 着あたりでゴールしたと思う。

レースを振り返って、初日に比べ韓国選手の荒い動きは減ったと感じるが、日本チームのほか、韓国以外のチームに対しての協調性は低い。チームとして動けたのは残り 10km からだったので明日は最初からチームでの動きができるように意思疎通を図りたい。

花田 凱成（祐誠 3 年）

5 時半に起床し、7 時過ぎには朝食を済ませた。8 時半からアップだったので、リラックスしながら準備をして、刺激を入れるため、みんなで「もがき」を入れたアップを行った。レースは定刻通り 9 時半スタート。監督の予想通り個人の総合やチーム総合に絡むチームが、アタックをしてどんどんペースが上がる。ここで一周目の序盤で落車が発生。巻き込まれなかったが、僕と成海君が遅れてしまう。上手く周りの選手と協力しながら集団に合流した。そこからはアタックと吸収の繰り返しが続き最終ラップに突入した。そこから、すぐに逃げ集団が形成され、それを追う流れになった。そのまま約 40 秒のタイム差がついた。メイン集団の中も、逃げに送り出したチームがコントロールし、なかなかタイム差がつかまらない。中盤から終盤にかけての登りで栗原君とアタックした。これが上手く決まって追走集団の流れができたが、前を捕まえることは出来ず、フィニッシュした。3 周目の逃げにのれなかった事が敗因だった。

成海（普天間 2 年）

レース 5 分前にゼリーを少しとり、9 時 30 分にスタート。前日のステージとは違い、早めにスタートラインに移動したため

前方でスタートができた。5 キロほどパレード走行があり、スタート時と同じ前方の位置をキープできるように心掛けた。

集団内はすごく密集していて、少しでもふらつくと他の選手にぶつかってしまう程だった。その約 8 分後、リアルスタートが切られ一気に 50 キロ以上にペースが上がった。

集団前方では各チームのアシストであろう選手がアタックを仕掛け、集団はそれを淡々とペースで追いかけて吸収。前半はこの繰り返しが続いた。ある程度するとペースは落ち着き、集団の動きが弱まったが、13 キロ地点にある登りの手前で落車が発生、その落車に巻き込まれた。転倒はしなかったためすぐに逃げ道を探し、集団に復帰したかったが、うまくいかず、20～30 秒ロスした。

そこから 1 人で集団を追いつけたが、なかなか差が縮まらない。諦めず全力で踏み続け、登りの入口までには、なんとか集団に復帰した。

登りに入ると再度ペースが上がリ、集団復帰で脚を消耗していたので、登りの終盤で集団から離されてしまった。

離れた後は下りと平坦で速度を落とさず踏み続けたが差は埋まらず 65 キロでリタイアとなった。

落車に巻き込まれ、集団復帰に脚を使ったとはいえ、自分の力の無さを実感した。また、レース序盤で集団から遅れチームに迷惑をかけた。

明日からのレースは気持ちを切り替えてチームのためにしっかり走りたい。残り 3 日。チーム一丸となってステージ優勝を目指したい。

満田 光紀（千原台③）

今日のコースは周回コースで上がり下りともあるが比較的平坦が多い、距離 93km のコースでした。

レースは、9:30 にパレードスタート、その後パレードが解除されリアルスタートしました。スタート直後からアタック合戦が行われ、チームもそれに何回か参加したが逃げが決まらずに集団のまま走っていた。登りに入ると他のチームの何人か離れ始めていき、集団の人数も徐々に減っていきました。その後の平坦では、前半と変わらずアタックが合戦行われていたが、逃げは決まらなかった。

2 周目も変わらずアタックが繰り返されたが、逃げが決まらずに 2 周目が終わった。3 周目の下りが終わってから 2 回のアタックで決定的な逃げが決まり、自分もそれに参加することができた。それから平坦を 3 人で走っていたが、後方より 4 人が集団から飛び出し合流、その後は平坦のペースが上がリ最高時速 65km まで上がった。何とか踏ん張ろうとしたが、自分はスピード負けで集団からちぎれてしまいました。その後はメイン集団にも残れず、そこからも遅れてゴールした。

今日のレースでは、韓国選手にスピード負けをして、韓国選手との差が分かった。残りの 3 日間全力で走りチームのために走り、チャンスがあれば今日のように逃げに参加し個人ステージ優勝を目指したい。

佐藤 健（九州学院 2 年）

今日は 9:30 出走だった。コースは 1 周約 30km の周回コースを 3 周回、計 93km だった。3km のパレード走行から、周回コースに入りリアルスタート。初めは集団のペースを上げる形で韓国の選手数名が積極的にアタックをかけ、周回 2km 地点のトンネルでは集団が縦長に伸び、60km/h 以上のハイペースでの走行が続いた。

アタックを機会にレースはどんどんハイペースな展開になっていった。前日のチーム順位に絡んでいないチームが積極的に飛び出す、すぐに捕まるの繰り返しで、一度集団が団子になった 15km 地点で大規模な集団落車により一度停車した。

そこから、同じく停車を余儀なくされたメンバーで集団に追い付き登りに入った。

登りは主要チームがペースを上げる形で進み、下りでは皆でペースを上げ、それを追走するかたちでレースが進んだ。

その後、集団の動きは少し落ち着き、2 周目は特に動きがなかったが、3 周目のトンネルでまた集団がペースアップし、7～8 人の逃げが決まった。自分は集団の真ん中辺りにいたため、反応できなかった。

それから韓国のゼッケン 124 選手がメイン集団から一人で追走アタック、集団ではそれぞれチームの思惑で、追走とけん制の繰り返しで活性化した。そんな中、残り 8km で 6～7 人の追走集団ができた。

チームメイトの栗原君と花田君の 2 人が入っていたため、まずはその集団の逃げを確定させるため集団を少しコントロールした。その逃げがほぼ確定した残り 4km ほどからスプリントに備え脚を少し休めた。残り 2km から集団がスプリントに向けてペースを上げたし、位置取りを始めたが、その際外からかぶせられ集団の内側に入ってしまった。残り 700m から外側に出て、500m からスプリントに入ったが結果はその集団で 4 着だった。

今日のレースは昨日よりはチームでまとまって走れたが、それでもまだバラけていたので、明日からの残り 3 ステージはチームとしての機能をしっかりと果たし、チームメイトをステージ優勝に導きたい。

相葉 健太郎（九州学院 3 年）

今日のレースは昨日走っていない（パンクで集団復帰できずタイムアウト）分、気合いが入っていた。レースが始まりパレード走行後はゆったりだった。成海君と話して最初のアタックに付いて行って下さいと言われたので、まわりの様子を伺いながら位置取りをした。途中落車がありメンバーのほとんどが足止めを食らった。2 周目は特に何もなくて付いて行った。

3 周目に残っているメンバーで話をした。登りでみんないなくなったと思ったらみんな前の方にいた。下りで追いついた。韓国のゼッケン 121 がちょっとした登りで仕掛けたので付いて行った。下りの手前で栗原君たちの集団が来たが付いて行けなかった。追い掛けたが追い付かなかった。最後のゴールスプリントの位置取りがあまりよくなかったが思いっきり踏んだ。

18:00、夕食前にミーティング（以下、MTG）を行った。第 1、第 2 ステージの様子を選手から聞き取りを行ったところ、一つの傾向がみられたので、翌日のアドバイスをを行った。登坂のスピードはそれほどではないとのこと、むしろ登り切った直後の下り坂でのアタックが多かったようなので、翌日は前半に登り坂があり、その後は下り、平坦基調が続くので、前々から一つ目の登坂から勝負！ 昨日からアテンド兼ドライバーのリウさんのご友人でスポーツマッサージができる方がおられるとのこと、ステージ上位 2 名に対してマッサージを受けさせている。うまく行けば明日以降もお願いできるかも？ すべては結果次第、シビアな遠征になりそうです。 ※順位詳細は、韓国自転車競技連盟の HP を参照のこと。



＜スタッフ MTG＞

コース途中の交通整理を除けばこの役員数でロードレースを仕切っていた。MOTOCOM が先回りに対向車を整理していた。競技役員も一人で複数のポジションを兼務、スムーズで合理的な運営は、お国事情？ も関係していると思いますが、見習うべき部分が多く感じた。



<バイクチェック&サインシート>

スペースの問題もあるが、シンプルで分かりやすい。天気も関係したのか無駄なテントがない。＜写真右＞のサインボードは早速見習いたい。使い捨ての看板はあまりにも無駄すぎる。単純には工事の現場で使用する折りたたみ看板。



<スタートの様子>

スタートセレモニー前にアナウンスが流れて一瞬で選手たちが集まってきます。日本のように場所取りはなし。スタート前に前日の表彰式が行われ、各種ジャージが授与される。セレモニーが行われている場所は幹線道路の脇の空きスペースでスタートぎりぎりの時間まで一般車両を通し、直前に競技役員が車両をコントロール、絶妙のタイミングで選手団をスタートさせる。



<第2ステージ/登坂コース>

ダラダラとした長い坂道というよりも、ガツンと急勾配を一気に上っていくような感じ。写真では分かりにくいかも知れないが 10%以上の斜度がある坂道。選手いわく登坂力はそこまでない？とのこと。それよりも坂が終了直後の下り坂～平坦のスピードが「やばい」らしい…。



＜情報交換＞

選手間、スタッフがレースを振り返り、記憶の新しいうちに情報を共有しあうことを心掛けた。

悔しがる選手がほとんどで、順位は別にして「何とかなる」との思いは共通して持っているようである。

参加する選手の層にもよるが、キチンと体制を組んで参加すれば、皆が期待する結果が得られる大会との感想。



＜食事の選択＞

何ステージか消化し、疲労も蓄積されてきているため、特にレース直後は糖質と消化吸収を念頭に選択した。

選手にリクエストを聞くとご飯類か麺類をリクエストしてくる。メニューがハングル文字なので、出発前に辛い、糖質の高いメニューをある程度調べておくの良い。今回のスタッフは何回かきているので問題なし。

文責：中田（全国高体連自転車競技専門部）